

Jリーグでは各年代での育成について毎年長い時間を費やし議論を進めています。  
大きく省略した資料となりますが、当クラブ各年代別での選手育成コンセプトとなります。

## 【U-4～6年代】

「歩く、走る、とぶ、投げる、捕る、転がす、ぶら下がる」など、人間としての基本の動きを学ぶ時期です。  
ある程度は生活の中で自然に覚えることもできますが、複数の動きを組み合わせた動作は、多少の経験や訓練が必要になります。サッカーに置き換えるとコントロール前にまわりを確認してファーストコントロールしながら相手より有利にボールを保持する。これも判断しながら複数の動きと考えられます。

## 【U-7～8年代】

この年代はボールをしっかり扱えないことがあります。  
ゲームをさせると、ボールを持ったなかでの状況判断能力が非常に低いということが分かります。  
そのようなことを総合して考えると、ボールフィーリングとボールコントロールを重視しなければならない。  
特にボールフィーリングはすべてのプレーのベースになるのです。

## 【U-9～10年代】

この年代はバランス能力が高まり、ランニングスピードを変化させるだけで転ぶことの多かったU-6年代とは異なり、転ぶ回数が減ります。  
したがって、基本姿勢やフォームを習得するのに最も良い時期です。  
サッカーに置き換えると、いろいろな角度からのドリブル・パス・シュートなど多くの選択肢を持たせる良い年代です。  
また、コーディネーション能力の発達は際立ったものがあります。  
バランス・力の出力調節・空間認識(物の位置関係を認識すること)などは最も盛んな時期にもなります。

## 【U-11～12年代】

この年代における大きな目標設定として「Learning to train」これは「トレーニングで学ぶ」という意味です。  
U-4運動開始期、U-9サッカー導入期を経て、U-12年代ではさまざまなトレーニングを通してサッカーのスキルを身につけていくように働きかけます。  
現代サッカーでは②VS②はサッカーにおいて非常に大事です。試合ではサイドや前線において②対②というユニットをもとに構成されています。①VS①ではドリブルで仕掛けることしかなく、ディフェンスにとっては守りやすい状況でもあります。しかし、②対②となると、ドリブルの他にパスという選択肢が出てきます。  
またU4～10で養われてきた判断能力がサッカーへ発揮し、「伸びしろ」へと大きな変化がみえてきます。

## 【U-13～15年代】

基本技術の反復とコミュニケーションスキルの養成、ボールに対する感覚や動作習得にとって最も重要な時期(ポストゴールデンエイジ)です。  
基本技術の習得の為、反復練習を取り入れると同時に、個人戦術・ゲーム戦術の理解を高めていきます。  
また、選手1人1人が戦える選手へと変化していきます。